

亜細亜大学  
漫画研究会

設立37年、部員数16名の亜細亜大学漫画研究会。市と協力し公共施設が抱える問題について、市民に分かりやすく説明するためマンガを制作し話題を呼びました。



亜細亜大学 漫画研究会

左/市来実香さん 中央/水戸部真優さん  
右/宮内正道さん

評判となった『わたしたちで考える公共施設の未来』。

市と大学がタッグを組んで  
市政を分かりやすくマンガに

今年3月、武蔵野市と亜細亜大学漫画研究会が協力して作成した、マンガ『わたしたちで考える公共施設の未来』が完成しました。武蔵野市にある公会堂や市民文化会館、学校、コミュニティセンターなどの公共施設の老朽化に伴い、考えなければならぬさまざまな問題を分かりやすく、市民の皆さんに伝えたいという市からの依頼を受けて、季刊『むさしの』の2013年夏号に掲載された特集を参考に同研究会が一からストーリーを考えて制作したものです。マンガは市のホームページに掲載され、また、市主催の委員会などで冊子にしたものが配布されるなどして「分かりやすい」という声もいただきました。

今回中心となって活動した同研究会前部長の市来実香さんは「季刊『むさしの』の特集記事をどうマンガにしたら良いかわからず、ストーリー作りに悩みました」と振り返ります。

今後も良い協力関係を結び  
作品を作りたい

日ごろの部活動では、自分が作りたいと思うものばかりを描いているので、相手の要望に添えてマンガを作ることの難しさを初めて経験しました。

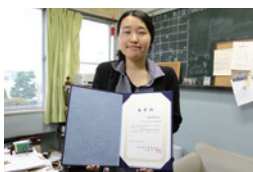
「作るのは本当に大変でしたが『分かりやすかった』『面白かった』という声をたくさんいただいたとてもうれしかったです。学校からも表彰され、頑張った甲斐がありました！」

第二弾の話はまだないということですが「続編を作るときはぜひ」と両者で合意しているのです。その時には今回の経験を生かして、後輩たちがさらに良いマンガを制作してくれるそうです。

亜細亜大学  
総合企画部 地域交流課

亜細亜大学は、人的資源交流・物的資源活用のための包括的連携協定を結ぶ武蔵野市をはじめ、近隣の市などで地域交流活動を実施。地域との交流は、地域の方と触れ合うだけではなく、参加する学生が社会的に成長する学びの場ともなっている。

☎0422-36-2469



活動が評価され、大学から「地域貢献団体賞」を授与された。



日ごろは部室で各部員が好きなマンガやイラストを描いている。



「機会があれば、また市とコラボレーションしたい」と皆さん。



アジア祭などで出品している、部誌『あじやあまん』。